

中田かわら版 10月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所
横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい＜20＞

学校・地域功労者 小糸義信さん (85歳) 根下

小糸さんの功績を一口では言い尽くせないが①昭和44年(1969)の中田小の健康優良児日本一に貢献②同校PTA会長3年、根下自治会長4年、中田連合理事10年以上などの功績③葛野小の立ち上げからPTA設立④町の交通安全などが挙げられるだろう。その他でも聾啞者の福祉事業への協力・向上。青少年の健全育成と防犯活動などで横浜市長からの表彰もある。見せて頂いた表彰状、感謝状は優に50枚以上(写真上)。

昨年11月15日、葛野小学校創立40周年記念式典が同校体育館で行われた。冒頭、小糸さんに^{あがた} 優子校長から永年の功労に対して感謝状が贈られた。会場からも大きな温かい拍手が贈られた。思えば小糸さんほど葛野小学校に思いをはせ開校などに貢献した人は少ないだろう。それだけに特別な思いがあったと思う。

昭和40年代は中田小、東中田小両校は児童の増加で教室が不足し、もう1校を南方角の葛野地区に学校用地を考えていた。そんな折、小糸さんはある有力な情報をキャッチ。折しも開催中の中田連合の役員会へ駆け込む。「大変だ、葛野の学校用地を神奈中がボウリング場を作るために土地の買収を始めている。契約を済ました者もいる」。のどかな環境場所に一大娯楽場ができれば町の治安や環境の悪化が懸念される、と心配した連合役員は即刻、市議員の奥津喬雄氏を先頭に立て交渉団を作り、市の教育委員会に連日、陳情。学校建設の必要性や神奈中の買収の中止を訴える。結果は教育委員会と神奈中側との話し合いとなり学校用地はとにかく無事確保された。朗報を聞いた小糸さんのその時の感激は今も忘



今年の賀詞交歓会

れられないと言う。

その後も同校の開校には望月(榮)、小糸両氏らが中心となりPTAの設立、初代会長に森 春義氏を推薦。同校以外にも中田の小・中学校にもいろいろと貢献、深い関わり合いを持ち、小学校にテレビなどを寄贈したこともある。小糸夫人曰く。「PTAにも関係していたこともあり、いつも学校に入りびたり。小糸さんは用務員さんですか、と近所の人から良く聞かれましたね」と笑う。

初めて聞く話も多い。東急電鉄の車掌時代、車内である事故があり乗客の安全処理が評価され五島慶太社長の耳に入り、給料が一挙に倍増した話や青年団時代、陸上競技の三段跳びで11m12で優勝、100mでも12秒2で2位になった話など。さらに、昭和30年ごろ演劇研究会「新星座」(座長・美月信之助)で踊りや役者で活躍。同50年10月の結成20周年記念では団員約30人で熱海の老人施設で公演、小糸さんは小々浪恵之輔の名前で出演、その実力のほどはプロの座長も認めたほどだ。

懐かしい話では平成10年6月、「石本美由起作詞生活50年を祝う会」が東京・赤坂プリンスホテルで開かれた時、小糸さんや私、葛野小のPTA会長ら6人ほど招待され細川たかしさんや石本夫人と一緒に写真を撮ったいい思い出もある。(注；石本美由起氏は葛野小学校の校歌作詞者)

(編集委員・宮田貞夫)

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

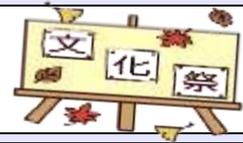


11月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【中田連合文化祭】 場所：中田小学校体育館・グラウンド
日時：11月7日(土) 17:00~18:00 11月8日(日) 9:30~14:45



「中田かわら版」100号によせて



中田の宝もの

中田連合自治会 会長 望月 榮

中田かわら版100号万歳。中田よいとこ住みよい所、宮もお寺も只一つと中田民謡に唄われています。昭和33年の3月に中田に住み付きました。当初は長後街道は砂利道で日本一の悪路と云われていました。川崎鶴見東京方面へ通勤の方々は共通な気苦労をしたものです。

昭和28年から実兄の経営する工務店に入り、東名高速の工事に関わり静岡県掛川にて約3年間、文字通り単身赴任を経て、昭和46年の9月に今の工務店を興して中田を拠点に仕事をさせてもらい今日に至っています。同48年から中田小、中田中のPTAに関わり、神奈川県交通指導員を拝命されました。戸塚交通安全協会、後に泉交通安全協会の初代の交通指導部長も今は懐かしい思い出になりました。中田連合との関わりは、奥津喬雄会長より交通部長を強引に命ぜられたのがそもそものきっかけです。東京オリンピック、大阪万博は日本の高度成長の象徴で、中田を含む泉区の誕生に合わせて大きく発展しました。その仕上げは地下鉄の開通と合わせて長後街道の拡幅整備がなされたことです。6月の梅雨時の大雨、秋の台風シーズンに入っても昭和40年後半から50年前半のような各町内会の浸水被害もなくなりました。平成20年より25年にかけて作られた中田東雨水処理幹線工事は、中村町内会のコープ生協の所から、下は汲沢中学の近くまで地下2.5m、内径化上で2mで人が立って楽々通れます。距離にして約2kmあります。

まだまだ課題はたくさんありますが、台風が来ても安心。60年近く住まわせてもらっていますが本当に中田に住んでよかったと思います。この中田に誇れるものに「中田かわら版」があります。編集委員のみなさんに感謝しています。100号おめでとう。

中田かわら版の歴史

横浜市踊場地域ケアプラザ所長 生田 純也

「中田かわら版100号おめでとうございます。」中田かわら版には、1号~70号まで関わらせていただきました。もともとケアプラザが発行していた「おどりば新聞」の裏面を活用するアイデアは私が提案したものです。紙の印刷は大きさに関わらず同じ料金だったので、A3折り畳みにすることで費用を掛けずに発行することが可能となりました。同時に皆さんに「おどりば新聞」を読んでいただければという気持ちもありました。



かわら版は、もともと「中田の福祉と保健を考える会」が発行していましたので、福祉についての話題が中心でしたが、編集委員の「中田の様々な事を伝えたい」という思いにより、徐々に分野が広がっていきました。そういう意味で思い出深いのは、「浜なし」「権五郎ボタル」といった地域情報や「中田いま昔」のような歴史紹介ですね。また「この人に会いたい」シリーズでは、中田地域には素晴らしい方々がいらっしゃることを知ることが出来ました。

今回で100号となりますが、この蓄積は結構な功績だと思います。100枚まとめて本にすれば、そこらの地域情報誌より内容は盛りだくさんでしょう。(WEBサイト、中田白百合地域情報サイトで、すべての記事を閲覧できます。)編集委員の皆さんはネタ出しが大変だとは思いますが、これからも良質な情報を中田地域に発信してください。

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！